



支援便り

令和5年3月発行 第9号
串木野養護学校 支援部

今年度も本校の地域支援事業を、各市教育委員会や園・学校の皆様方の御理解・御協力を得ながら、予定どおり終わることができました。本当に、ありがとうございました。

また、年度末にお願いしましたアンケートにつきましても、たくさんの御回答をいただき、感謝しております。アンケートの結果やいただいた御意見等は来年度の支援事業の充実に活かして参ります。アンケート結果の詳細につきましては、次の支援便りでお知らせいたします。



＝今年度の地域支援事業のまとめ＝

巡回相談について

- 本校の担当地域は、いちき串木野市、日置市（旧吹上町を除く）、薩摩川内市（旧祁答院町を除く）の公立・私立の学校・園となっています。昨年度までは、新型コロナウイルスの感染拡大のため、オンラインや電話による相談が中心で訪問件数が少なかったのですが、今年度は74件の巡回相談依頼に対し、全て実際に赴いて対応することができました。
- 巡回相談の内容の多くは、通常の学級に在籍し支援を必要としている子供たちの授業参観と教育相談でした。その中で特に多かったのは、読み書きに関する困難さを抱えている子供たちに対する相談でした。また、よりよい学びの場（就学先）に関する相談や保護者との連携のあり方についての相談も多く寄せられました。
- 巡回相談前には、子供たちの実態や課題把握のために、事前シートへの記入・送付の御協力どうもありがとうございました。おかげで、当日の相談がとても進めやすかったです。これからも御協力をお願いします。

来校相談、電話相談について

- 本校に来校していただいたの相談（学校見学会時の相談も含む）が59件、電話・メールによる相談が19件ありました。就学先として本校を視野に入れた場合の質問や巡回相談実施後の子供の様子に関する相談、また、医療的ケアを要する児童についての相談などがありました。

講師派遣について

- 校内・市町村の研修会の講師として、8件の依頼があり、特別支援教育の現状や課題、具体的な支援方法、保護者との連携、切れ目ない支援等について講話を行いました。また、校内支援会議やケース会などをより実践的なものにするためにインシデントプロセス法を参考にした話し合いの進め方を研修し、実際の事例を基に話し合いも実施しました。

「串養夏季セミナー」（特別支援教育に関する研修会）について



- 地域の先生方への特別支援教育に関する情報・研修提供の場として、令和4年7月26日に3年ぶりに串養夏季セミナーを実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中でしたので、参加人数や時間等を制限しながらの実施となりましたが、地域の園や学校から25人の参加がありました。今回は、県こども総合療育センターとの共同研修として、センターより二人の先生方をお招きし、本校職員も全体研修として講話を拝聴したり、情報交換会を行ったりして、特別支援教育に関する有意義な研修会を実施することができました。

講話1	「鹿児島県こども総合療育センターの機能と受診の仕方について」 鹿児島県こども総合療育センター 支援部 地域支援課 上野幸太 先生
講話2	「こどもの見方（作業療法士の視点から）」 鹿児島県こども総合療育センター 作業療法士 道岡真貴子 先生

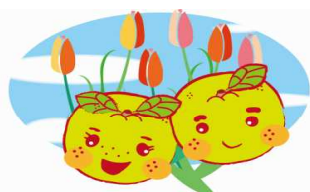
リーフレット、「支援便り」について

地域サポートのお知らせや特別支援教育に関する情報発信として、リーフレットや支援便りを発行し、郵送したり本校ホームページに掲載したりしました。中でも、支援便りは今号で9号発行することができました。一読していただくと幸いです。

1号	4月発行	令和3年度のセンター的機能に関するアンケート結果について
2号	8月発行	1学期の巡回相談のまとめ
3号	8月発行	「串養夏季セミナー」について
4号	12月発行	2学期の支援事業のまとめ
5号	12月発行	多様な学びの場について
6号	1月発行	「特別支援学級」と「通級による指導」について
7号	2月発行	特別支援学級・学校等での教科書について
8号	3月発行	引継ぎについて

今年度は、本校コーディネーター9人で、各校の担当を決めて相談に対応させていただきました。その中で、地域の先生方の実践を見学させていただいたり、お話しさせていただく中で「なるほど、そうしたらいいのか。」「本校や他校の先生にも紹介したいなあ。」など私たちが学ぶことも多くありました。

これからも地域の先生方と一緒に、子供たちの発達、成長を支援していけるよう取り組んでいきたいと思っております。



1年間どうもありがとうございました。